

事業の背景・目的

洞爺湖には、ウグイやヨシノボリなどの在来種や、絶滅危惧種のイトイバラモやチトセバイカモなど希少な水草などが生息している。2005年のウチダザリガニの発見以降、生息域内では水草やスジエビ等の在来種は激減した。地域を上げて洞爺湖固有の生物多様性を保全するため、洞爺湖生物多様性保全協議会を設立しウチダザリガニの防除に取り組んできた。しかしながら、近年、ウチダザリガニの生息域は洞爺湖一円に拡がりつつあり、限られた予算の中で最大限効率的な捕獲方法などの手法を確立することが急務であり、生物多様性保全推進支援事業を活用し、将来的な防除体制づくりを行う。

事業の内容

- 事業① 洞爺湖水草生息状況調査
- 事業② ウチダザリガニ連続捕獲装置の実践投入
- 事業③ ウチダザリガニの捕獲調査
- 事業④ 洞爺湖で捕獲されたウチダザリガニのデータ収集及び分析
- 事業⑤ 地域における生物多様性保全の意識醸成のための啓発活動

事業① 2019年度環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) のカタシャジクモとフラスコモが確認され、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) のイトイバラモとササエビモが確認された。

事業② 今年度実践導入したウチダザリガニ連続捕獲装置は、捕獲したザリガニの引上げが1週間に1度とすることが可能であり、作業効率が大幅に向上した。

・
・

得られた成果

ウチダザリガニの影響により洞爺湖の生物多様性は危機的な状況にある。本事業の実施により、継続的な防除活動を行うことにより、ウチダザリガニの個体数の低減を図り洞爺湖の生物多様性保全をが保つことができた。

本事業では、ウチダザリガニの捕獲調査を継続的に行うことにより、効果的な捕獲方法や生息域の拡大防止に向けた検討をするための基盤となるデータを収集するとともに、ウチダザリガニの防除を行うことで洞爺湖の生態系の維持、回復を図る。

捕獲データを駆使した効果的な捕獲や連続捕獲装置など新たな機材の導入による効率的な捕獲手法を確立し、事業終了後も低予算で活動が継続できる体制を構築する。